



# 世羅に誇りをもつ子どもを育成する

～ふるさと教育を核として～

町内全小中学校は、ふるさと学習の推進とキャリア教育の充実と共に、地域に根差した特色ある学校文化の継承に努めている。6年生は、世羅の地に根づく各校ならではの文化を足掛かりに、総合的な学習の時間を中心にカリキュラムマネジメントを行いながら、学習発表会、世羅教育の日を開催される「輝くせらの学校文化発表会」での舞台発表を集大成として取組を進めている。また5年生が行う「山・海・島」体験活動も、世羅高校陸上部が修行を行う修善院での座禅・ランニングロードでのマラソン体験、世羅の名産梨狩り体験等、地域の良さをふんだんに味わえる内容となっている。世羅の文化に触れ、活動を通して世羅に誇りをもつ子どもたちが育ち、最終的には地域に貢献できる児童の育成を目指し、歩みを進めている。

(世羅町立せらひがし小学校・栗原英樹)



発行所  
広島県連合小学校長会  
事務局  
東区光町1-11-5  
地産ビル1003号  
電話(082)263-6381  
発行者 宮本浩嗣

世羅に誇りをもつ子どもを育成する	1	委員会報告	3
事務局日誌	1	朝会講話	5
会長あいさつ	2	県教委だより	6
広島県連合小学校長会総会・研究大会	2	随想	6
退職校長紹介・新任校長紹介	3	あとがき	6

## 事務局日誌

- 4月3日 会計監査 (東区)
  - 4月3日 第一回幹事会 (東区)
  - 4月9日 中国地区広島大会現地実行委員会 (呉市)
  - 4月19日 県公連理事會 (立町)
  - 4月20日 第一回理事會 (東区)
  - 5月6日 中国地区広島大会現地実行委員会 (呉市)
  - 5月7日 第一回各委員会 (書面)
  - 5月7日 第二回幹事會 (東区)
  - 5月10日 県公連評議員會 (書面)
  - 5月18日 全連小理事會 (オンライン)
  - 5月19日 全連小総会 (オンライン)
  - 5月20日 第72回県連小総会 (オンライン)
  - 6月3日 中国地区広島大会現地実行委員会 (オンライン)
  - 6月7日 広報委員会 (オンライン)
  - 6月8日 第三回幹事會 (オンライン)
  - 6月14日 県公連理事會・評議員會 (オンライン)
  - 6月16日 教育調査小委員会 (オンライン)
  - 6月18日 教育研究全体委員会 (オンライン)
  - 6月21日 県公連不祥事防止対策特別委員会 (オンライン)
  - 6月22日 第一回総務會 (東区)
  - 6月22日 第一回県市連絡協議會 (東区)
  - 6月30日 全連小合同部會・合同委員会 (東京)
  - 7月2日 中国地区広島大会現地実行委員会 (呉市)
  - 7月6日 第二回理事會 (東区)
  - 7月9日 全連小会長會 (オンライン)
  - 7月14日 全連小広報担当者會 (書面)
  - 7月16日 第四回幹事會 (東区)
  - 7月19日 全連小事務担当者會 (オンライン)
  - 7月30日 中国地区第一回理事會・連絡協議會 (オンライン)
- ※会場の略号  
(事) 県連小事務局  
(東) 東区民文化センター  
(立町) 広島経済大学立町キャンパス

会長あいさつ



新しい時代の学校創造に向けて

会長 宮本浩嗣

県連小は、総勢三二五名でのスタートとなりました。これまで歴史を築いてこられた県連小の先輩校長先生方の思いを確かに継承し、会員の皆様のご支援、ご協力をいただきながら、職責を果たしていく覚悟でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

校長先生方におかれましては、新たな危機管理としての感染症防止をベースにしながら、最高経営責任者としてのリーダーシップを発揮され、日々の学校経営に努めておられることに、心から敬意を表します。

三一五名が一丸となり、子供たち・教職員のために、是正指導を風化させることなく、新しい時代に対応しながら、各校の教育の充実に努めてまいります。

さて、本会は今年、大きな転換期を迎えています。

一つ目は広島市小学校長会が組織上分離して活動を行うこととなったことです。県市分離にあたって、どのような関係を維持することが望ましいのか、また、県連小の組織の在

り方についても時間をかけて検討を積み重ねてまいりました。

この検討の過程において、校長の出張を減らし、自分の学校経営に専念できる環境をつくりながらも、効率的で機動性を高めることを目指し、組織をスリム化し、会議の精選を行うてまいりました。一方で、県連小理事會役員の皆さんや各委員会委員の皆さん一人一人が果たす役割や責任は大きくなり、県連小での意思決定をより良いものにしていく必要があります。

また、広島市小学校長会とは、組織分離後も「広島県連合小学校長会・広島市小学校長会連絡協議会」を設置し、また教育研究大会も連携・協力して行うことを通して、顔の見える関係を継続し、お互いが切磋琢磨していくことのできる関係を継続してまいります。

二つ目は、コロナ禍における今、まさに私たち校長自身の資質・能力が問われているということ。さらに言えば、校長に必要な資質・能力も時代とともに変化していつてい

るのではないかと、目前の課題解決に追われてしまうことなく、先見性と展望がさらに必要な時代に移っていつているようにさえ思えます。

現在、中央教育審議会では、新しい時代の初等中等教育の在り方について議論されています。高学年の専科制の導入やICTを活用した個別最適化された学びの実現など、新たな学校の在り方とも重なっております。

それぞれの学校実態や学校を取り巻く環境が異なるなかにおいて、学習指導要領の確実な実施、GIGAスクール構想で導入された一人一台端末による授業改善、学校における働き方改革の推進等、新たな学校の在り方に向けて、まさに校長一人一人の判断力、発信力、統率力が今も問われ続けています。

この状況下において、校長自身が学び続ける教師を体現すること、そのために職能集団としての校長会の機能を高めていくことが、県連小の大きな課題であると考えられています。

いずれ「Winコロナ」から「Postコロナ」へと、学校は大きな転換期を迎えることになるでしょう。今は、出口の見えない難局ではありますが、私たちこそが、新しい教育を創っていくのだという気概を持ち、新たな価値を生み出す取組をともに進めてまいります。

(福山市立御幸小学校)

第72回 広島県連合小学校長会総会・研究大会

とき 令和3年5月20日(木)  
ところ 県民文化センターから各所属にリモート発信

- 1 開会行事
- 2 会議 (書面決議報告のみ)
- 3 研修 「広島県小学校教育における当面の課題」  
広島県教育委員会学びの变革推進部長 富永六郎様
- 4 講演 「改めて授業について考える」  
文部科学省初等中等教育局 主任視学官 長尾篤志様
- 5 閉会式





退職校長紹介

Table listing names of school staff members, organized by municipality (e.g., 廣島市, 安芸郡, 尾道市).



新任校長紹介

Table listing names of school staff members, organized by municipality (e.g., 廣島市, 安芸郡, 尾道市).



委員会報告

教育調査委員会

委員長 衛藤朋弘

本委員会は、継続的に刊行してきた『教育調査報告書』『広島県公立小学校の実態』について、調査方法及び活用方

Table listing names of school staff members, organized by municipality (e.g., 大竹市, 山県郡, 尾道市).

策に係る検討を行ってきた。

令和三年度より広島県連合小学校長会と広島市小学校長会が県内においては組織上分離して活動を行うことに鑑み、令和元年度にまとめた「今後の県連小教育調査の在り方について」を基本とし、次の活動を行うこととしている。

一 活動内容

○ 白書的人格を持つ事項について、広島市教育調査との共通項目を中心に調査し、教育調査報告書「広島県公立小学校の実態」を作成

○ 調査項目を精選するとともに校長の課題意識を投影するような事項についても調査項目を設定し、調査の仕方やフィードバックの方法を検討

○ 新たな集計ツールを作成し、速やかに集計結果を情報公開するとともに、メールやホームページ等を活用したダイジェスト版を発行

二 活動計画の概要

五月 役員選出・活動方針・活動内容の検討・活動計画

六月 調査内容に係る協議・調査方法の検討

七～八月 調査項目・新たに引き上げる調査項目・集計結果の公開方法の検討

九～十月 調査・集計・公開及び、調査結果の分析

十二月 ダイジェスト版の作成・発行について取りまとめ

一月 活動のまとめ (尾道市立山波小学校)

# 人事給与委員会

委員長 安宗 誠

第一回全体委員会中止のため、昨年度末の検討事項や申し合わせ事項等を踏まえ、本年度の役員を選出し、活動方針・活動計画等を決定した。

その主な内容は次のとおりである

- 一 活動方針
  - 県連小の活動方針を受け
  - 人材育成方針・体制のもと、教職員としての使命感や倫理観、実践的指導力などの向上に努める。
  - 教職員の職責に相応する適正な処遇が得られるように努める。
- 二 活動計画の概要
  - 校長を中心にした学校経営が進むようとりわけ、本委員会においては、人事・給与面で裁量の幅が広がるよう努力していきたい。また、市町の教育委員会と校長会との連携を深め、より望ましい学校経営に寄与していきたい。

- 役員選出・活動方針・活動計画・研修内容についての決定
  - 実態調査の集約・分析・考察・懇談会資料の作成
- 六月～八月  
十月～十二月

- 児童の転校についての調査依頼
- 本年度の活動のまとめと次年度の課題について
- 人材育成等に係る研修会
- 次年度アンケート調査の検討
- 児童の転出調査と学校間連絡
- 次年度活動方針・活動計画の作成

(呉市立阿賀小学校)

# 教育研究委員会

委員長 岡崎 孝史

本委員会では、研究主題「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」、副主題「夢や志をもち 他者と協働して 主体的に新たな価値を創り出す子どもを育成する学校経営」に基づき、第一回全体委員会で令和三年度の活動方針、活動計画を次のように決定した。

- 一 活動方針
  - 研究主題の具現化を図るために、五つの研究領域から十三の研究課題を設け、さらに研究の視点を明確にして、各組織団体において積極的に研究実践を行う。
  - その成果を第六十八回中国地区小学校長教育研究大会広島大会・第五十七

回教育研究大会西部大会において提案し、共有化を図ることで研究の一層の深化を図る。

## 二 活動計画の概要

十六地区の各組織団体での研究実践交流の場として、年に三回の全体委員会と分科会運営案の検討や大会要項の作成に向け、四回の小委員会の開催を予定している。併せて、現地実行委員会との連携を図り、適宜検討・協議を行う。

加えて、本年度開催される主な研究大会は、十月十三日から十四日に行われる全連小石川大会がある。さらに、十二月二十七日には第二十一回県公連研究大会が開催される。会員の皆様の積極的な参加をお願いしたい。

なお、次年度は、福山市において、第五十八回の教育研究大会を八月に開催する予定である。一層の研鑽に努め、以て県民の負託に応えたい。

(福山市立新市小学校)

# 広報委員会

委員長 清水 眞人

六月の広報委員会をオンラインで実施し、令和三年度の活動方針、活動計画を次のように決定した。

## 一 活動方針

- 県連小・各機関の会議・会合の審議決定並びに実施状況について迅速的確に伝達する。
- 会員の意思や、校長会の活動を収集伝達し、交流を図る。
- 会員及び校長会に、職務遂行、資質向上、学校経営充実に生かせる情報を提供する。

## 二 活動計画の概要

- ① 会報二回(第一八八号・第一八九号)の発行(校長にはメール配信とする)
  - 会報には、トピックス、あいさつ、退・新任校長紹介、委員会報告、学校経営、朝会講話、県教委だより、随想などを掲載する。昨年度から研究集録「もみじ」と内容の重なりが多かった三月号は発行しないこととしている。
- ② 研究集録「もみじ」(令和三年度版第三十二号)の発行
  - 本年度は中国大会を本県で開催するため、従来通りの内容で発行する。
- ③ 速報の発行・配付
  - 県連小速報 年四回程度
  - 全連小速報 年数回程度
- ④ 全連小「小学校時報」への寄稿
  - テーマに従い執筆依頼・連絡などを行う。

(東広島市立西志和小学校)

# 朝会講話

## 「命を考える」

理事 吉本博行

校長先生が勤めていた前の学校には、いろいろな国の人が学校に通っていました。普段使う言葉は違います。食べるものも違います。大切にしている考え方も違います。でも、みんな同じように思っているのは、自分らしく楽しく生きたいという気持ちでした。

今日は、「命の大切さについて考える日」です。廿日市市の全ての小中学校のみんながいじめのない社会をつくるためにどうするかを考える日です。校長先生には心配していることがあります。みんなにも、考えてほしいことがあります。それは、この学校にももしかしたら、自分の何かが、みんなと違うことで、からかわれ、いじめられることで、辛い気持ちをずっともっている人がいるんじゃないかということです。

もしそんな人がいるとしたら、メッセージを送ります。

いじめられてもよい理由をもって生まれた命は、一つもありません。

違うことで悩む気持ちは分かります。でも、その気持ちを分かってくれる人

はたくさんいます。

おうちの人でも、友達でも、先生でも、相談してください。校長先生や金剛寺小学校の先生は、きちんと話を聞きます。違うことで悩んでいるのなら、悩まなくてもよい方法を一緒に探します。先生たちだけで解決しないことがあれば、ほかの大人の人を頼ってでもよい方法を探します。だから、決して一人だとは思わないでください。

一人一人違うみんなと笑顔で過ごすための自分の心のもち方を一緒に考えましょう。

(廿日市市立金剛寺小学校)

## 「心から応援してもらえる人に」

会員 石川和明

一年間延期となっていた東京オリンピックの開催が近づいてきました。新たにオリンピック出場を決めた選手の話題も多く取り上げられています。

六月二十五日、広島出身の山縣亮太選手がオリンピック百mの出場切符を勝ち取りました。その偉業はもちろんです。その人柄の良さも話題になっています。

私は、山縣選手が小学生の頃に少し関わることがありました。六年生の時には、陸上クラブのキャプテンをしていました。明るく素直で礼儀正しく思いやりのある、まさに「笑顔・挨拶・思いやり」を身に付けたいいキャプテ

ンでした。今もその良さを変わらずに持ち続けています。

山縣選手は日本人で最初に九秒台を出すであろうと言われていました。山縣選手自身もそのつもりで努力をしていました。四年前、ライバルである三歳年下の桐生選手が先に九秒台を出したときに、いち早く「おめでとう」のメッセージを送ったのは山縣選手でした。桐生選手は自分だったら、悔しくてできなかったと思う、と当時のことを振り返っています。

オリンピックを見るとときには、結果や記録だけでなく、選手の人柄、人間性にも注目してみてください。

皆さんは、今も、そしてこれからもいろいろな場で、いろいろな意味で、いろいろな人に支えられていたり、応援してもらったりします。心から応援してもらえる人になれるように本校のスローガンである「笑顔・挨拶・思いやり」を大切にして、学校生活、日常生活を送っていきましょう。

(海田町立海田東小学校)

## 「もうすぐ」

### オリンピック・パラリンピック

理事 光元和恵

七月になりました。もうすぐ、日本でオリンピックとパラリンピックが始まります。四年に一度開かれるこのスポーツの大会は、世界中の約二百の国や地域から代表に選ばれた選手たちが

集まる予定で、スポーツを通して平和な世界を実現しようとする大会です。

今日は、東京オリンピック・パラリンピックを成功させようと関わっておられる方や取組を紹介します。

まずは、豊松小学校の先輩でもある藤原佑妃さんです。藤原さんは、ギリシャから運ばれた「火」を日本でリレーによって開会式までつなげる聖火ランナーの一人となられた人です。オリンピックに関わりたいという思いをもち、大会が成功するようにと願いながら走り、自分の夢も叶えた人です。

もうひとつの成功させるための取組は、パラグアイという国の選手団との関わりです。神石高原町や近くの市や町は、パラグアイの選手が大会に参加するために日本に來られた時に、交流をしようという準備をされていました。本町なら神石高原町には、ゴルフの選手が練習に來られる予定でしたが、感染症対策により來られないことになってしまいました。しかし、交流はできないけれど、子供たちがパラグアイのことを知るきっかけになればと、別の方法を考えておられるそうです。

さあ、オリンピックもパラリンピックももうすぐ夏休みの間にあります。日本選手やパラグアイの選手を「がんばれ！」と応援してみませんか。大会を支えるために関わっておられる人たちはどんなことをされているのか、目を向けて見ませんか。豊松小の子供たちが、夏休み中に多くの応援や発見をしてくれることを期待しています。

(神石高原町立豊松小学校)

# 委り 教よ 県だ

「学びの変革」の更なる推進に向けて

「本質的な問い」による授業改善のススメ

広島県教育委員会事務局学びの変革推進部

義務教育指導課長

矢原 豊 祥

本県では、令和三年度からの「学びの変革」(第三期)において、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、これまでの「課題発見・解決学習」等の実践を基盤に、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を一層推進し、教科等の本質に迫る授業の実現を目指している。

その手だての一つが、「本質的な問い」の考え方を参考とした授業改善である。単元を構想する際、カリキュラムを構成する質問を階層に分けて構造化すると、「本質的な問い」、「単元を貫く問い」、「個別の問い」の大きく三つの階層の「問い」に整理することができる。

「本質的な問い」には、まず、「人はなぜ生きるのか」「地球全体の持続可能な発展のために、自分には何ができるのか」など、「生きること」そのものに関する問いがある。さらには、「私は何のために学ぶのか」、「その教科等を学ぶ意義は何か」という問いもある。このように「本質的な問い」とは、一つの明確な答えがあるわけではなく、生涯において何度も問い直され、答えが更新され続けるような問いである。各教科等における「本質的な問い」を基にして、各単元での学びがあること

を意識し、「生きること」と教科等の学びとを結び付けていくことが重要である。

「単元を貫く問い」とは、「本質的な問い」に基づいて立てられた、児童生徒が教科等固有のもの「見方・考え方」を働かせながら、単元(あるいは題材)を通して考え深めていくような「問い」

## 随想

### 日々思うこと

コロナ禍という未曾有の事態の中、本県はもとより、全国の学校において、児童・教職員の健康・安全管理や、学びの保障など、懸命な取組が行われている。

本連合会の活動方針に重点項目として示されている「安全・安心な教育環境づくりを行う。」は、ご承知のとおり、どのような状況下においても学校に求められていることである。

そうした中、日々思うことは、どのような状況下においても、「凡事徹底」「決めたことをみんなできやり続けること」「教育は地道なり」、そして何より、

である。その解決に向けて、単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能等につながる問いが、「個別の問い」である。

教師は、まず「本質的な問い」を立て、それに基づいて単元を通して考え深めていく「単元を貫く問い」を立てる。そして、それぞれの授業場面における学習の流れをイメージしながら、「個別の問い」を立て、単元計画を構想したり見直したりする。こうした学習により、児童生徒は、その教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、深く思考し、「主体的な学び」へと向かう。そうした光景が教室で展開されることを期待する。

副会長 坂田 登

「すべての子供のために」「判断に迷った時は、子供の目線から再考すること」という先輩方からの教えである。

また、組織的に動くためには、状況や課題などの情報が、正確に学校全体で共有されていること、「報告・連絡・相談」「確認」が、危機管理上いかに重要であるか、これまでずっと言われ続けてきたことであり、日々実感している。企業においても、「報告」は義務

「相談」は問題解決のため、「連絡」は心配り(相手が欲しがっている情報を伝えること)であると言われていると聞く。日々、お互いに「報告・連絡・相談」

## あとがき

「確認」を大切にするとともに、相手意識をもち、具体的にわかりやすく話すことを心がけたいものである。

おわりに、「一期一会」「最善を尽くす」という言葉がある。赴任したその場その場で何を成し遂げるのか。我がやりたいことではなく、その学校において受け継がれてきた「よき」と、「課題」等を的確に把握し、よりよい学校づくりのために、計画的に何に着手しなければならぬのか。平等に与えられた貴重な時間のもと、次に着任される方にどのような状態でバトンを渡すのか。その責任の重さとやりがいを感じながら、そして、多くの方々の支えとご理解・ご協力に心より感謝し、引き続き、地道に協働的に学校経営を行っていくと、日々思う。

(三原市立須波小学校)

本年度も、新型コロナウイルス感染症対策により、学校行事や教育活動にかなりの制約が生じています。校長として判断(決断)を迫られることも多く、校長先生方には、近隣校と連携しながら、正解のない答えを探すことに大変ご苦労されていることと思えます。このような中で、この会報一八八号が発行できたことは、ひとえに皆様方のおかげと感謝しております。

県連小広報活動が、少しでも皆様の学校経営の充実に資するよう引き続き努力して参りたいと思えます。一年間、皆様のご協力を宜しくお願い致します。